

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	六郷町立六郷小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	21
児童数	54	44	53	59	54	41	4	309	

実践研究の概要

1 主題

学ぶ意欲を持ち続け、確かな学力を身につけていく子供の育成

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～6年生 算数
子どもの理解度に差が出やすい教科であるため。
- ・ 1～6年生 国語
各学年とも言語能力をより豊かに育てたいため。
- ・ 3～6年生 理科（3，4年生では教科担任制）
3～6年生 社会
これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。
- ・ 1，2年 生活科
3年からの理科，社会，総合の学習につながる重要な教科であるため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 子供に確かな学力をつけるための指導の工夫 ～「算数科」を中心として～ 研究の見通し（仮説） 「算数的活動」を積極的に授業に取り入れたり，学習形態を工夫したりすることによって，子どもの学習意欲が喚起され，『確かな学力』を育むことができるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 研究の組織化・組織を生かした研究推進と実践 詳しくは，（3）研究体制に掲載 評価を生かした単元づくりのシステム化 単元リーダーが中心となって，以下の手順で単元づくりを進め，確かな学力を育むための授業改善に取り組む。 ・ 指導の前提となる「基礎・基本」の明確化 ・ 分かる楽しい授業のための「算数的活動」の工夫 ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫，改善（少人数指導の積極的な展開・教科担任制の試行） ・ 学力の評価を生かした指導の改善 学力を支える基礎的な力の育成 ・ 生活，学習習慣の形成 ・ 「読み，書き，計算」の力の充実（朝自習の時間等の活用） ・ 家庭学習の充実 ・ 読書指導，詩の暗唱指導</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 学ぶ意欲を持ち続け、確かな学力を身につけていく子供の育成</p> <p>研究の見通し（仮説） 認め合い、高め合う学習集団づくりをし、子どもができる・分かる喜びが感じられるような単元づくりを進めることによって、子どもは学習意欲をもち続けるのではないか。 子どもの学ぶ意欲を大切に、基礎・基本を明確にした指導に心がけ、個に応じたきめ細かな指導をすることによって、子どもに確かな学力を定着させることができるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 （１）子どもの学ぶ意欲を大事にした指導の工夫 温かい人間関係をベースとした温もりのある学級づくり 「認め合い、信頼し合う」子ども同士・教師と子供の関係 子どもができる、分かる喜びが感じられるような単元づくりの工夫 課題設定の工夫 学び合いの場面の設定 体験活動（操作活動）の重視 自ら学び、自ら考える力の育成 発達段階を踏まえた学び方の指導 学びの対象である教材の価値の明確化 他者からの学びの奨励 学習環境の整備 自己評価、相互評価の工夫 単元計画の中での明確な位置付け 自己評価、相互評価を生かした学習過程の工夫</p> <p>（２）全教科・全領域での「基礎・基本」の明確化、個に応じたきめ細かな指導の工夫 基礎・基本、ねらいと評価規準を明確にした上での単元づくり 国語・社会・算数・理科での、個に応じたきめ細かな指導を工夫 指導に生きる評価の徹底 個人カルテなど変容が分かる評価の工夫 ITの積極的な推進 発展・補充教材の開発 効果的、効率的な学習形態の工夫 ペア学習 グループ学習 少数数学習 習熟度別学習 課題別学習 各教科での「単元づくりのシステム化」の模索 14年度構築してきた算数の「単元構想システム」の他教科への応用 教員の得意分野を生かした教科担任制（専科制・交換授業）の拡大</p> <p>新年度になってからの協議で、テーマ・仮説のとらえが深まり、昨年度の間報告書の内容から若干の変更点がある。</p>

平成16年度	<p>テーマ 学ぶ意欲を持ち続け、確かな学力を身につけていく子供の育成</p> <p>研究の見通し（仮説） 認め合い、高め合う学習集団づくりを進めながら、子どもの実態把握に努め、子どもが「できる、分かる」喜びが感じられるような単元づくりをすることによって、子どもは学ぶ意欲をもち続け、確かな学力を身につけていくのではないか。</p> <p>研究内容・方法 は16年度の重点事項 （１）子どもが「できる、分かる」喜びが感じられるような単元づくりの充実 目標（基礎・基本）と指導と評価の一体化を図った単元づくりの工夫 ・基礎・基本の明確化、評価規準の設定・見直し ・学習課題の設定の工夫 体験活動（操作活動）の重視</p>

個に応じたきめ細かな指導の工夫

実態に応じたTT指導，少人数学習の推進

教師一人による一斉指導の中での個に応じた指導の工夫

発展，補充教材の充実・整理

学び合いの場面，発展的に考える場面の重視

指導に生きる評価の徹底

診断的評価 形成的評価 総括的評価 自己評価，相互評価の工夫

「観点別評価取りまとめ表」の作成

・教師の得意分野を生かした教科担任制（交換授業含む）の充実

・学習状況調査，標準学力検査の結果を指導に生かす工夫

全教科・全領域の関連性が分かるカリキュラムデザインの作成

(2) 学びの基礎の育成

生活習慣・学習習慣の育成，基礎学力の充実

「話す・聞くスキル」の指導，徹底

相手意識，目的意識をもった話し方・聞き方の段階的指導

・校内学習環境の整備

・家庭との連携，小・中連携の推進

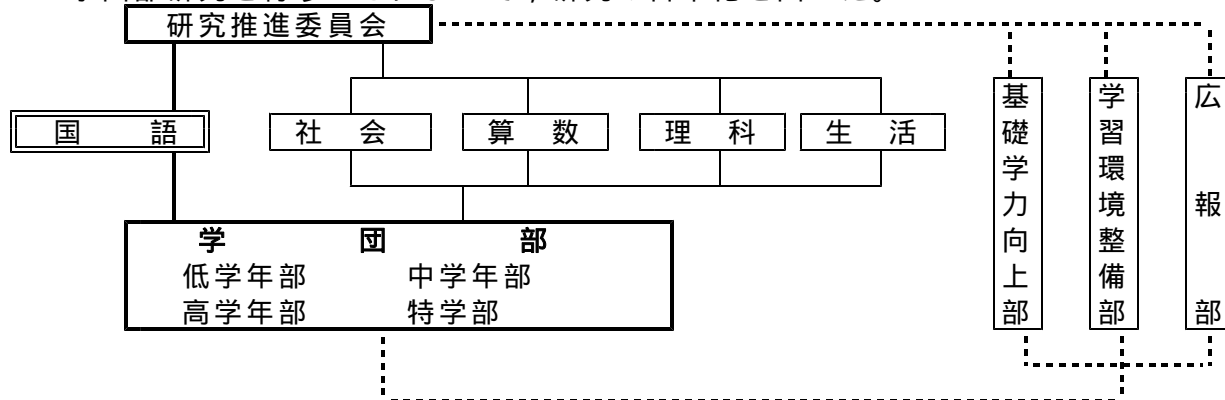
(3) 研究推進体制

14年度からの改善点

・14年度は算数科1教科の実践研究

15年度は国語科を中心として5教科の実践研究とした。

・学団部研究を行うことによって，研究の日常化を図った。



必要に応じて全体研修を3コースのいずれかで行う。

国語コース・・・全員が所属
年間を通して機能させる

社会，算数，理科，生活コース・・・全員が4つのいずれかに所属
学期に数回機能させる

基礎，学習，広報コース・・・全員が3つのいずれかに所属
学期に数回，研究会時などに機能させる

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

算数

全単元で単元リーダーを中心とした単元づくりを行った。

・全単元で「観点別評価取りまとめ表」ができつつある。

・評価規準を見直すことで，教師の評価規準のとらえ方が的確になり，判断基準の設定力が高まってきた。

算数的活動の充実，学び合いの場の工夫等で，授業改善が進んだ。

- ・まず，一斉指導の中でしっかり力を付けていくことを目指し，それでもつまずいている子どもがいる場合（つまずきがかなりの確率で予想される場合）は，単元の途中や終わりに理解の程度に応じた少人数学習などをどの学年でも行っている。
- ・課題に対して「見通し」がもてるような指導の工夫を行っている。どの子ども自分なりにねばり強く問題解決できるようになってきた。
- ・単元の流れが分かる「マスターカード」や「自己評価カード」の工夫，ノート指導により子どもが自分の学びの足跡を残せるようになってきた。
- ・問題解決学習だけでなく，習熟が必要な計算場面などでは十分時間をとって計算の意味を確認しながら習熟させた。
- ・家庭学習プリントを作成し，身に付けた基礎・基本が維持できるようにしている。また，学期の終わりには学び直しの時間も保障している。

- ・算数が好きな子どもが増えた。また，つまずいていた子どもも単元テストに自信をもって臨んでいる姿が見られた。
研究の日常化が進んだ。また，教材研究，授業の準備などを分担して行うようになった。

国語

算数の研究を生かした国語の「単元づくりシステム」を構想した。

伝え合う活動の工夫

- ・子どもの思いや願いを生かし，相手意識，目的意識をもたせる。
- ・楽しいこと（そして確かな力が付くこと）が単元のゴールにあり，子どもにとって学習過程の一つ一つが必要感のある学びになるようにした。
- ・その活動を通して，何の力を育てるのかを授業者が意識して支援するようにした。

自己評価，相互評価の工夫

- ・自分たちの学習の状況を明確に把握し，それを次の学習に生かす。
- ・「できた！」という実感をもたせる。

解説書の分析，評価規準の作成によって，授業改善が進んだ。

- ・解説書を分析し，各領域の「基本構想」を作成した。
- ・「基本構想」から１年間で付きたい力，この単元で付きたい力を明確にし，評価規準表に盛り込んでいった。

ねらいが明確な授業ができるようになってきた。

単元と単元のつながりを意識するようになった。

- ・生き生きと言語活動をする子どもの姿が多く見られた。

他教科や日常でも国語力を意識して指導するようになった。

- ・全ての教科，領域で話す・聞く・書く・読む活動があるので，国語での学習を意識した指導をしている。
- ・朝の会や掃除の反省会など日常生活全般にわたって機会をとらえ，国語力を意識した指導をしている。

- ・相手に伝わるように話そう，しっかり聞こう，丁寧に書こうとする子どもの姿がとても多く見られるようになってきた。

理科，社会

算数や国語の研究を生かした単元づくりがスタートした。

- ・魅力ある課題設定の工夫，単元の導入の工夫
- ・他教科，他領域の学習との関連を重視した単元構想
- ・体験，実験，観察の重視
- ・地域人材・素材の積極的な活用，小・中学校の系統性の重視

理科の教科担任制によって，大きな学力向上が見られた。

- ・教科の専門性を生かした指導によって，学ぶ喜びがもてる授業ができ，子どもの学習意欲を喚起した。
- ・いろいろな教員の目により，子どもの多様なよさが評価できる。
- ・子どもは担任だけでなく，いろいろな教員のよさを学ぶことができる。

2 今後の課題

国語・算数

学びをつくり出すTT指導，必要感のある学習形態の具体的な事例の整理が不十分である。

どんな単元のどんな場面ではどんなTT指導や学習形態が有効かを整理したい。
評価規準のとらえ方，判断基準の設定の仕方を教師間（学校間）で共通理解する必要がある。

・1時間1観点 B規準のみ Aとする判断基準は？

どうしてもつまずきが見られる子どもへの補充指導（十分到達している子どもへの発展学習）プランが明確になっていない。

・どんな内容がよいか どのような学習形態等が最善か

社会・理科

調べた結果，実験した結果をどう学び合いに生かしていくか

学習の場を設定する場合は，教科担任と学級担任の協力が不可欠

学力等把握のための学校としての取組

全国標準学力調査の実施・・・2月

秋田県学習状況調査・・・7月

子供の学習（国語と算数）に対する意識アンケート・・・5月と12月

} 結果分析し，改善の方策を立てる。

子供の実態把握の重要な基礎資料とする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

自主公開研究会の開催

H15年度・・・6月27日（金） 六郷小学校 大曲仙北郡内の小学校対象

11月20日（木） 六郷小学校 県南地区の小学校対象

目的・・・学力向上のための授業改善の在り方について

H16年度・・・10月27日（水）予定 六郷小学校 県南地区の小学校対象

県南地区「確かな学力」向上推進協議会において，本校の取り組みについてワークショップ形式で発表。 H16年1月21日（水）

郡内の小・中学校から研究同人（16名）を依頼し，本校の単元づくりについて助言，指摘を受けた。

HPの作成

フロンティアスクールページ <http://www.obako.or.jp/650est01/>

研究紀要の作成，県南地区小学校への配布

他校からの反響等

・公開時に「大いに刺激を受けた」などの多数の感想が寄せられた。

・本校の評価規準，通知表等がどうなっているのかという問い合わせがあった。

